

協議会ニュース

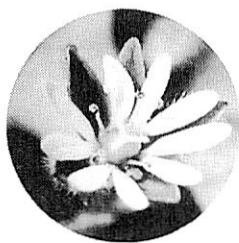
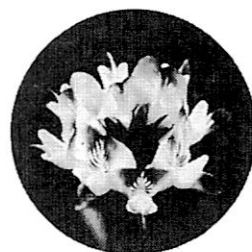
愛知県自然観察指導員連絡協議会 2003.5



総会特集

総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・	P2
「話し合おう、あんなこと、こんなこと」・・・・・・・・	P4
講演会を聴いて・・・・・・・・・・・・	P6
明日に向かって・・・・・・・・・・・・	P7

88号



支部トピックス・・・・・・・・・・・・	P8
フィールドだより・・・・・・・・・・・・	P10
会員リレー・・・・・・・・・・・・・・	P11
コラム/編集部だより・・・・・・・・・・	P12

愛知県自然観察指導員連絡協議会

平成15年度通常総会報告

総会出席者:49名(委任状55通)

◆第1号議案 平成14年度事業報告

1.自然観察会(参加者:一般/指導員)

(1)ふるさと自然観察会

5月18日	西三河	「新緑の大滝溪谷を楽しもう」	(4/7)
5月25日	奥三河	「乳岩峡の新緑を楽しもう」	(15/10)
6月1日	名古屋	「お宮の森、残された森」	(8/4)
6月8日	東三河	「朝倉川のゲンジボタルの観察」	(49/16)
6月15日	尾張	「棚田の生き物たち」	(27/11)
6月30日	知多	「森の妖精・キノコに会いに行こう」	(20/7)

(2)定例観察会(支部の協力があり、協議会で参加者に傷害保険をかけている観察会)

東山公園、猪高緑地、明德公園、明德緑地、大森湿地、平和公園、瑞穂公園、島田湿地、庄内公園、大高緑地、相生山緑地、平針、小幡緑地、森林公園、定光寺、善師野、築水池、笠松町トンボ池、日進岩藤川、知多地域各市町村、平戸橋、境川河口、闇刈溪谷、朝倉川

(3)協議会が指導員派遣依頼を受け、支部で行った観察会

名古屋支部:千種保健所6回(120/16)、西春町2回(50/5)、中川保健所1回(20/2)

知多支部:西春町1回(25/3)

西三河支部:岡崎自然体験の森7回(90/20)

2.研修会等

(1)なごやメダカを知っていますか

(2)ネイチュア・フィーリング研修会へ協力(愛知県等主催)

(3)指導員の集い(知多支部行事と合同開催)

(4)パネル展セントラルパーク情報ギャラリー

3.機関誌(協議会ニュース)の発行

隔月6回…81号～86号

4.受託事業

東海財団「中部」の山々」(その2)発行

◆第2号議案 平成14年度決算報告

※別途報告いたします。

◆第3号議案 平成15年度事業計画

1. 自然観察会

(1) ふるさと親子自然観察会

6月7日 名古屋 名城公園 10:00～12:00

6月8日 尾張 森林公園植物園 9:00～12:00

6月28日 西三河 愛知県緑化センター昭和の森 9:00～12:00

6月28日 知多 東浦町明德寺川 9:30～12:00

6月29日 東三河 豊川(宝飯郡一宮町江島橋付近) 9:30～12:00

6月29日 奥三河 愛知県民の森 10:00～15:00(要弁当)

後援:(財)日本自然保護協会、後援予定:愛知県、愛知県教育委員会、中日新聞社

広報:中日新聞に掲載予定

(2) 定例観察会(支部の協力があり、協議会で参加者に傷害保険をかけている観察会)

東山公園、猪高緑地、明德公園、島田湿地、庄内公園、大高緑地、相生山緑地、平針、小幡緑地、森林公園、定光寺、善師野、築水池、笠松町トンボ池、日進岩藤川、知多地域各市町村、平戸橋、境川河口、閑刈溪谷、吉祥山、海上の森(4月より第1水曜日)

(3) 協議会が指導員派遣依頼を受け各支部で行う観察会

市町村、公民館等の行う自然観察会を支部に取り次ぐ

2. 研修会等

(1) 5月10日、11日…静岡県京丸のアカヤシオ・シロヤシオ自生地の視察

(2) 9月23日講演会(予定)…講師※現在交渉中

(3) 11月1～3日自然観察指導員講習会への協力

(4) 12月23日…研修会 新指導員の各支部での歓迎会が終わったところで、協議会会員との顔合わせの意味も含めて行う研修。

3. パネル展

名古屋市栄の地下街の情報ギャラリー(予定)において定例等の観察会のパネルなどを通して自然観察活動のPRを行う。

4. 機関誌「協議会ニュース」

隔月上旬 年6回発行(3月、5月、7月、9月、11月、1月)

5. 受託事業

東海財団「中部の海岸」の作成

6. リーフレット作成

今年度の新指導員向けとして60部+αを目安に作成。今回は試作的にリソグラフで作成し、次年度以降にバージョンアップを図る。

◆第4号議案 平成15年度予算

※別途報告いたします。

～話し合おう、あんなこと、こんなこと～

●西三河支部 原田勉

いつもお世話になっている方々に、お礼やお話がしたいと思い西三河の山奥から出かけてきました。地下鉄に乗る時、名古屋はさすがに人が多いなと思いました。地下鉄を降りて会場とおぼしきビルの前に来たと思いました。が聞く人がいません。ビルに入ってエレベータで12階へ行きました。私にとっては異常な環境でした。窓越しに大竹勝先生のお顔を発見した時はほっとしました。

時間が来て「話し合おう、あんなこと、こんなこと」のテーマにそって担当の方が話を進めて下さいました。私たちのグループは「自然観察指導員は何ができるか」になりました。私はなにができるのかなと戸惑いました。

メモ用紙が5枚くばられ「自分でできることを書いて下さい」と速いテンポで進みます。「自

然観察ができる」でなく、どう表現するか、頭の中がまっ白くなるのを感じました。「書けましたら一枚ずつ出して下さい」の声で、内容を検討して仕分けていきました。

自然体験、興味をもたせることができる、子どもたちに伝える自然、自然の案内ができる、自然のたのしみ方、自然に関心をもたせる、地域の調査記録ができる、総合学習への協力ができる、など(大竹先生のご指導も加わって進んできた。)地域への働きかけ、行政との調和、老人会、子ども会へ自然観察のたのしみ方、自然観察の方法、自然の案内人としての自覚、興味関心の持続など。実践課題がいっぱいで閉会。私は楽しく夢多き話し合いができたと感謝しております。



●尾張支部 山岡雅俊

あらかじめ用意された3つのテーマ毎に6～7名ずつテーブルに分かれ、自己紹介のあと、それぞれのテーマに沿って意見交換を行った。私は、「協議会って何？」というテーマの話し合いに参加した。

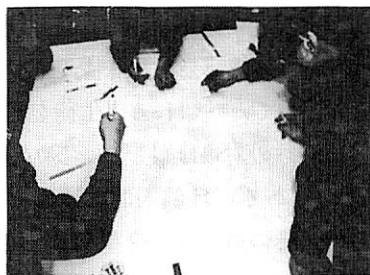
意見交換は、一人一人が5枚のカードに自分の意見を記入し、それを発表するというカード式KJ法という手法で行われた。話し合いの中で、協議会の組織的な問題点として、「協議



会と各支部との関係や役割分担をはっきりさせるべき」「会員への情報提供をもっと多く」という意見があった。また、協議会の対外的な役割として、「県内の自然保護問題に対して協議会として意見を言うべき」「全国レベルの組織(NACS-J)と各支部との取次ぎをする」「各支部の活動(定例観察会、研修会など)を会員だけでなく外部にもアピールする」となどという意見もあった。意見交換をしていく中で、協議会の抱える問題点や役割についてじっくり考える

ことができた。

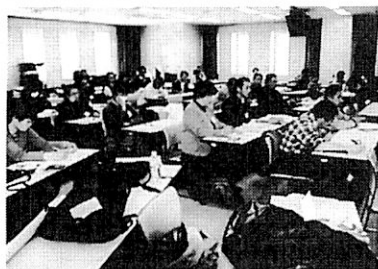
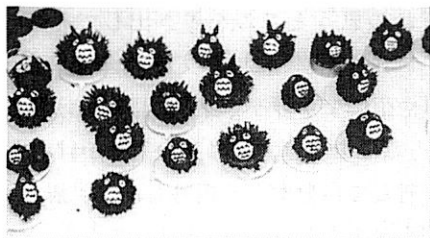
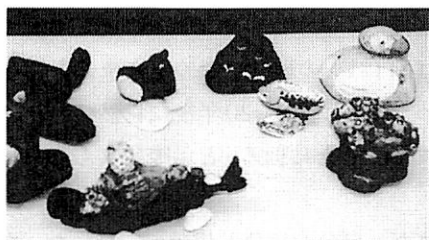
各テーブル毎の意見交換のあと、代表者が前に出て各テーマ毎の話し合いの結果を発表した。それぞれのテーマでの話し合いの内容を知ることができ、参考になった。と書くと、いかにも真剣に話し合いに参加していたように思えるが、実際には「いい天気だな。山歩きしたいな」「シデコブシのつぼみはだいふくらんだかな」「もうすぐギフチョウも出てくるころかな」などと頭の隅で考えながら話し合いに参加していた罪な私です。



午前中に行われたグループ討議。各テーブルごとで決められたテーマに対し意見交換を行った。

フリーマーケット

午前の部のあと、会場内に会員の持参した本や手作りクラフトなどが並べられました。



今年の総会は近年にない多くの参加があり、総会に趣向を添えたKJ法による活性化へのグループ討議や、クラフトの実演と展示即売、参考図書の提供や頒布、そして講演会と、どれもとても盛況であった。

(知多支部 畠烈)



講演会を拝聴して

●東西三河支部 中西正

宇津野先生の講演会を興味深く拝聴した。教員として、「切れる」生徒を見る機会は多く、彼らへの対処は難しい。しかし、大きな（社会的）あるいは個人的な原因を知ることによって、その対処は多少なりとも可能になる。お話の中では「ロールレタリング」や「内観」といった、先生の経験や実践からの分析がなされていた。愛撫抱擁の不足が抑圧された怒りになり、中学生になって発現してしまう。

「切れる」子は幼児期に体験すべきものを忘れてきてしまった子と考えられるという。身近な生徒を見ると、そのような理解が可能な子も多い。

自然観察指導員としては、「切れる」という

ことと自然の関係もお聞きしたかった。幼児期に忘れてきたものの中に自然との体験もあるのではないかと思っている。それらの不足が将来どのように発現するのだろうか。忘れた自然体験は追体験が可能だろうか。可能な場合、われわれ大人がセットしたものでもいいのだろうか。

もし、これらの分析がなされていれば、私たちの自然観察会に新しい意味が加わることになる。今回のお話は新たな可能性を感じさせてくれた。

講演会を聴いて

●知多支部 昌烈

今年の総会は近年にない多くの参加があり、総会に趣向を添えたKJ法による活性化へのグループ討議や、クラフトの実演と展示即売、参考図書の提供や頒布、そして講演会と、どれもとても盛況であった。

講演会は「怒りの発散」というテーマで、現職の中学校教諭の長年生徒指導にあたられた尊い経験を通してのお話。「やるべきことがキチンと教えられていない大きな子供たち」に真正面からぶつかり、心を砕いて砕いて真剣に指導されてこられた姿がひしひしと伝わった。

「彼らはしばしば、怒る相手の無い言わば“やり場の無い怒り”を爆発させる。ずっと抑圧された怒りか、或いは不可解な感情からの怒りか、いずれもその源は欲求不満であるが、成長の過程で“愛撫抱擁”を欠いてきたことにより、言葉や感情を十分に交わすことができず、子も

親も根本の欲求を整理できないでいる。この爆発は「自然への理解がなく、キチンと対応しなかったため10年、20年後に自然のシッペ返しを受けることに似る」と示唆に富んだお話でした。

また、自分が自分と相手の二役になって、それぞれの思うところを書き出してみる“ロール・レタリング”について、例えば「自分がその母や花になり切って自分に語りかけてきたとする」ことを書き、次にその語りかけてきたことに対して自分がどう返答したか、思ったか」を書く。すると「いろいろ見えてくる」という。どなたかが「これは観察会で応用できそうだ。やってみると面白いかも!」と語った。

野にある花について、あるいは鳥について、どんなことが見えてくるのでしょうか。大変有意義な講演でした。

明日に向けて

愛知県自然観察指導員連絡協議会会長 大竹 勝

本会も設立から22年を経過し、会員数500名に達しようとしています。自然観察会も当初と異なり多様化して、観察会参加者も増加して自然観察会を広く普及することには成功しましたが、観察指導方法があまり向上したとも思えません。協議会は内容を高める努力をこれからは必要としています。協議会としての観察会の統一的な方針をどうするのか、支部との関連性をどのように考えるのかなど多くの問題があります。運営にも多くの問題点を抱えています。いまこのときに、会の方向性を見極め将来に向けた発展のためになにをするのか、多くが問われています。今必要なことは、方向性を確立することだと思います。協議会が社会的に認められるためには、NPO法人とすることも重要だと考えています。しかし現状の協議会ではその体制が出来ていません。今までほとんどの業務を個人の能力に依存してきましたが、このような状態では将来の発展性もありません。現在一

番重要なことは事務局体制の確立にあります。会の事業、体制、会計等全体を把握出来る強力な事務局体制を確立することが重要で、特定個人ではなく集団で責任を分担して統合的に運営をする必要があります。そのために多くの点で問題の処理を必要としています。現行の運営方法を抜本的に見直し、規約、規程等の改正の検討も行い、万全の体制の事務局の確立をするために、各部会、理事会等で詳細に検討を行いたいと思います。早急に運営上の問題点を解決し、本会の目的である自然観察会を通して自然の大切さを多くの人々に伝えるための事業を展開したいと思います。

平成15年度愛知県自然観察指導員連絡協議会役員

- 会長 大竹勝(尾張)
- 副会長 松尾初(尾張)、中西正(東三河)
- 監事 間瀬美子(東三河)、鬼頭弘(尾張)

総会をおえて

総会終了後は茶話会が行われました。各自の自己紹介や近況報告など、初めて知り合う会員同士もいたようで、良い交流の場となりました。

また少人数ではありましたが、近くの居酒屋で夜の交流会も行われ、こちらは昼とは違った雰囲気盛り上がっていました。



支部トピックス

知多支部 (知多自然観察会)

●知多支部総会報告

知多支部副代表 岩崎光明

平成15年の知多支部総会が2月16日〔日〕
知多市の知多市地域文化センターで開催されま
した。

出席者は40名
でした。議事は、
竹内秀代さんの



司会で進められました。内容は、最初に自己紹
介がされ、続いて加藤代表が挨拶されました。
挨拶の要点は、一つの区切りとして昨年支部結
成20年記念行事が、知多地域文化センターで
盛会の内に行われたこと。これを一つの節日と
して知多自然観察会が成長発展していきたいと
希望が述べられました。引き続き14年度の行
事報告、会計報告、各市町のミニ観察会の報告
と15年度の行事予定、役員人事、各市町の世
話人の選出が行われました。

役員選出について、総会前の市町連絡会で
20年を一つの区切りとして加藤代表、庶務担
当の降幡氏から、新しい人に交代していただき
たいとの要望がありました。総会に向けて加藤
代表を中心に各市町の世話人の方と何度も話し
合いがもたれ、調整した結果、次の通りとする
ことになりました。

現在の代表1名、副代表1名、庶務〔事務局〕
1名を代表1名、副代表5名、顧問2名とする
ことにしました。この案が総会に提案され承認
されました。そこで選出された役員は次ぎのと

おりです。

代表…降幡光宏、副代表…榊原靖・村瀬由
理・南川睦夫・畠烈・岩崎光明、顧問…加藤
寿芽・原穂

庶務が担当していた実務を副代表が次の通
り、分担する事になりました。

庶務(南川)、年報(榊原)、観察会(村瀬)、
支部行事(岩崎)、会計(畠)

以上を決めた後、昼食をはさんで懇親会、自
然情報交換、近況報告、観察ノートや本のバザー
などが行われ、更に有意義な話の輪が広がり楽
しい一日とすることで総会が終わりました。

●知多支部の活動体勢

知多自然観察会は各市町ごとに分かれてそれ
ぞれ年間行事を計画して、ミニ観察会を行って
います。目的は、地元の自然・足元の自然を今
一度見直すために身近な自然に親しみ、観察し、
身近な自然の大切さを知ることです。各市町の
ミニ観察会行事予定を合計しますと、72の行
事が予定されています。また、公共団体からの
受託観察会(役所、学校、公民館、地方事務所
などから)があります。これらの行事は、支部
全体の協力体制で取り組んでいます。その他、
会員のみの行事として、親睦研修会が年2回行
われます。

支部活動については、<http://www.japan-net.ne.jp/~furihata/>をご覧ください。

西三河支部

●西三河支部総会報告

平成15年2月16日(日)17:30から、刈谷市
産業振興センターで、西三河の自然を知る会

(西三河支部)総会が開かれた。

1.会長挨拶

2.自己紹介(15名)欠席連絡8名

- 3.平成14年度事業報告(王滝、昭和の森、閑
荊、猿ヶ島、平戸橋、境川)
 - 4.会報三号まで。予算的にこれ以上は無理
 - 5.「20周年記念誌」作成
 - 6.月例観察会
 - 7.平成14年度会計報告「会費納入24人で、70
名の会員に会報を送り続けるのは無理。」
 - 8.平成15年度役員選出
 - 9.新役員挨拶 山原「会長10年以上。今期に
限って」
 - 10.平成15年度事業計画
 - 1.自然観察会
 - (1)H.15.4/19(土) 9:00～12:00 小原村篠平
 - (2)5/17(土) 9:00～12:00 王滝溪谷
 - (3)6/28(土) 9:00～12:00 昭和の森「ふるさ
と親子自然観察会」
 - (4)7/13(日) 9:00～12:00 閑荊溪谷
 - (5)9/6(土) 9:00～12:00 猿ヶ島(沖ノ島)
 - (6)10/26(日) 9:00～12:00 平戸橋
 - (7)H.16 1/4(日) 9:00～12:00 境川
 - (8)H.16 2/ 8(日) 午後 総会
 - 2.会報の発行… 3・6・9・12月(年4回)
意見「インターネット・メールの利用を」
 - 3.月例観察会…第1日曜=境川、第2日曜
=閑荊、第3日曜=岡崎自然体験の森、
第4日曜=平戸橋、王滝溪谷自然観察会
6/28 8/16 11/15 2/21他
 - 4.岡崎市自然体験の森観察指導の応援 …
今後の観察会活動を第2木曜日と第3日
曜日で実施。
 - 11.平成15年度予算案…会費未納者に納入を
促す。例えば封筒の表に会費未納と朱印
を押す。
 - 12.20年誌原稿「3月15日までに中西まで」
- 総会終了後、有志12名で親睦夕食会をもち、
20:00頃閉店であわただしく解散しました。

奥三河支部

●奥三河支部総会報告

平成15年1月25日(土)

◆平成14年度事業報告

1. 1月14日(土) 平成14年度総会 新城観
光ホテル 参加者12名
2. 5月25日(土) 乳岩観察会 参加者14名
3. 5月11日(土) 上記乳岩観察会下見 参
加者9名
4. 4月27日(土) 支部観察会(ホソバシャク
ナゲ群生地、バイオトイレ他) 参加者12
名
5. 11月9日(土) 支部研修会 宇連ダム上
流 参加者12名
6. 会計報告
7. 役員改選(任期は2年)
支部長 今泉洋良
副支部長 杉山茂生

庶務 村上和彦

◆平成15年度事業計画

- ・ふるさと親子自然観察会 6月29日
- ・支部観察会 宇連山 5月11日
- ・支部研修会 稲武町 夏焼 城山 11月
16日予定

フィールドだより

おかざき自然体験の森観察会

西三河支部 伊東清

おかざき自然体験の森は市中心の北部東名高速道路岩津バス亭より北1600メートル(徒歩約20分)岡崎市八ツ木町に、昨年10月敷地103ヘクタールのうち約40ヘクタールを岡崎市が散策路、木工教室、工作棟や炭焼き窯、木材用煮窯等の整備を行い、定期的に自然観察会・森作りの指導を受知県自然観察指導員連絡協議会へ依頼があり、西三河支部の現地に近い方々に指導をお願いすることで、平成14年7月14日仮オープン時に現地見学会、9月26日に観察会を行いました。10月より第2木曜日と第3日曜日の午前10時より12時の2時間20人の定員で、現在まで実施しています。昨年10月より今年3月までに12回観察会を行い

177名の参加者がありました。3月16日の観察会では、アカガエル、ヒキガエル、トノサマガエルの一部孵化しているのを見ることができました。またカワセミ、カルガモ、ケリ、ジョウビタキ、ホオジロ、カシラダカ、キセキレイ、メジロ、ウグイス、コゲラ、シジュウカラ、エナガ等野鳥、スミレの花、ニホンタンポポ、スギナ、ゼンマイ等春の草花が観察できました。

自然観察会以外には、森の植物観察会、バードカービング教室、木工・竹細工教室、森のおりがみ教室、炭焼き体験、紙すき体験、森づくり体験、ネイチャーゲーム、森の模様さがし、神秘的森体験ツアー、森の水中生物観察会等があり、又季節の体験、田植、稲刈りも予定していますので機会がありましたら一度お越しいただき御指導下されば幸いです。

2003年度会員研修『雪と氷の自然観察』

東三河支部日帰り研修担当 星野芳彦

去る2月16日(日)にはじめての「冬季」会員研修を面ノ木園地(津具村)で行いました。スノーシューを使って雪の上に残る動物の足跡を探す「アニマルトレッキング」を主な目的とした観察会でした。



担当者の星野は、十数年前の冬、NACS—J主催で戸隠を会場とした雪上現地研修会に本会の神戸さんと共に参加したことがあります。また、スキー場のできる以前の茶臼山高原をクロスカントリースキーで歩き(滑り?)まわってもしました。当時は圧倒的な少数派でしたが、現在では、「ネイチャースキー」や「スノーシュー」で雪の上のハイキングを楽しむ人が増えてきました。特にスノーシューは特別な技術も不要で誰でも出来ます。

茶臼山高原道路の面ノ木IC付近は未明の雪

が冷たい雨に変わり、それまでの積雪がかなり溶けていました。1月6日の下見には、道路は全面圧雪状態、面



ノ木峠の樹木は霧氷に覆われ、吹き溜まりの積雪は数十センチに達していました。林道を少し歩くだけでノウサギ、キツネ、ホンドリリス、アカネズミなどの足跡が観察できました。昨年来、面ノ木峠周辺ではツキノワグマが出没し、地元の方からも林道から奥に入るときは注意するよういわれ、背筋が寒くなりました。もちろん当日の会員のザックには、クマ避けの鈴がぶら下がっていました。

観察会当日、雪は溶け、あいにくの雨模様で最悪の状況でしたが、それでも、所々に残る雪の上にウサギの足跡と食痕、イノシシのフィールドサインを見つけることが出来ました。しかし、それ以上にスノーシューで歩くこと自体にみんな夢中で、15人の「おてんば娘とぼっく

う小僧」の嬌声にクマも恐れをなしたようでした。

昼食は、面ノ木ビジターセンターの駐車場付近でランチパーティー。

帰路は津具から東栄へ。今回のもうひとつの日玉でもある「清酒『蜂龍盃』の蔵元 森山酒造場」へ向かいました。奥三河の地酒は今や「蓬莱泉」が有名ですが、その十分の一ほどの生産量にもかかわらず元禄年間からずっと造り酒屋を営んできたのがこの「森山酒造場」です。酒樽や搾り機ひとつひとつにこの酒蔵の歴史と伝統を感じ、ご主人が「昔蔵造り」と呼ぶのも頷

けます。

柴田さんの提案で東栄町から鳳来町にかけての国道151号線にそったセツブンソウの群落に立ち寄り、キンボウゲ科のこの可憐な花に春の訪れを感じました。

以上初の冬の会員研修でしたが、参加の方々には、寒冷地の自然観察の雰囲気を感じていただけたようです。

会員リレー

※お断り 都合により滝崎さんの会員リレーは次号掲載させていただきます。

【藤原優年】(ふじわらまさとし・東奥三河支部)



今年2月、鹿児島の出水まで「ツル」を見に行きました。職場のR氏の親戚で、出水市在住のO氏に案内して頂き、小雨の降る中でツルたちの観察をしました。

O氏は、「ツルの人たちは、いつも子どもの両側に親がいて、子どもを守っている」などと、ツルのグループのことを「ツルの人たち」と呼んでいました。

R氏も職場で「ツルのご家族様は、餌を採っ

【松尾初】(まつおはじめ・尾張支部)



蝶の採集で野山を歩くようになってから40年ほどになります。

学生の時にエコロジーに興味を持ち、森林生態学のある林学を専攻しました。

この時もまだ蝶の採集を続けていましたが、物質の分解に関連する土壌中のカビの観察が忙しくなり、蝶の採集は止めてしまいました。最近地球規模の環境変化が世

ている時も交代で誰かが見張りをしている」などと、ツルのグループを「ツルのご家族様」と呼んでいました。その呼び方は、親しみのわくほのぼのとした言葉として聞きました。

自然を観察する時、科学的な見方だけでなく、擬人的な見方で見ることも観察会を楽しく親しみのあるものにする気がしました。

★バトンを渡す人

旧職場で一緒だった吉村暁夫さんからバトンを受けました。つぎは、その職場で一緒だった荒巻敏夫さんにバトンを渡したいと思います。旧職場でバトンを渡し合っていてすいません。

間を騒がせており、これに伴ったフェノロジーに興味を覚え、樹の枝の伸び方、葉の展開の時期、開花時期、落葉の時期について今年は観察しようと思います。ただし、残念なことに今まで観察してきたことがきちんと記録に残していませんでした。これからしっかり残そうと思っています。

★バトンを渡す人

観察会の先輩内海勇夫さん次をお願いします。

ヒメボタルサミットin愛知

とき:平成15年5月25日(日)

13:00~16:30(受付12:00~)

ところ:名古屋市科学館

サイエンスホール

コラム

「自然観察が科学教育に必要なものとして大きく評価されるようになりました。

従来、自然観察は、趣味的要素が強く日の目を見ませんでした。しかし、環境教育・総合学習的な学習の時間として少しずつ評価されつつありました。2003年に至って、科学教育を振興するための興味づけとして高く評価されました。自然観察会が社会に必要な活動であることを世間がやっとわかってくれました。」

尾張支部 山田博一

(3月2日付の中日新聞『社説』に教育現場での実験や観察の必要性を説いた記事が掲載されました。山田さんは「自然観察が社会に必要なものとして認知された歴史的な社説」と述べています。)

今号の表紙

総会出席者のみなさん

(平成15年3月20日 なごやボランティアNPOセンターにて)

スタッフ

石井幸子、石田晴子、岩沙雅代、鬼頭弘、国安俊夫、近藤記巳子、佐藤国彦、中西たかお、浜口美穂、符川真弓、降幡光宏、古川俊江、横井邦子、横田法子、吉田裕孝

※6月は「ふるさと親子自然観察会」が各支部で実施されます。詳しくは各支部までお問い合わせ下さい。

ふるさと親子自然観察会…環境月間に因み、次世代を中心に身近な自然に親しみ、自然の仕組みを理解し、自然を守ることに関心を持つ人を増やすことを目的に行う。

(平成15年度事業計画)

『協議会ニュース』スタッフ募集!!

いっしょに
「協議会ニュース」
作りませんか?

- 協議会や支部関係の観察会やイベントに参加し、その記事を書いてみたい方
- 記事を「協議会ニュース」掲載用に編集(パソコン作業)してみたい方
- 何を載せるか?その企画を考えてみたい方
- イラスト・コラム・川柳・詩などを書いてみたい方、またはその編集をしてみたい方
- レイアウトをしてみたい方
- これからパソコンをやってみようと思っている方

などなど、何ができるかわからないがとにかく「協議会ニュース」づくりに参加してみたい!と思っている方はぜひ編集部までお知らせ下さい。

愛知県自然観察指導員連絡協議会 「協議会ニュース」編集部

491-0057 愛知県一宮市今伊勢町宮後字西松山43-1 大野荘B-106

吉田裕孝 TEL/FAX 0586-43-3829